

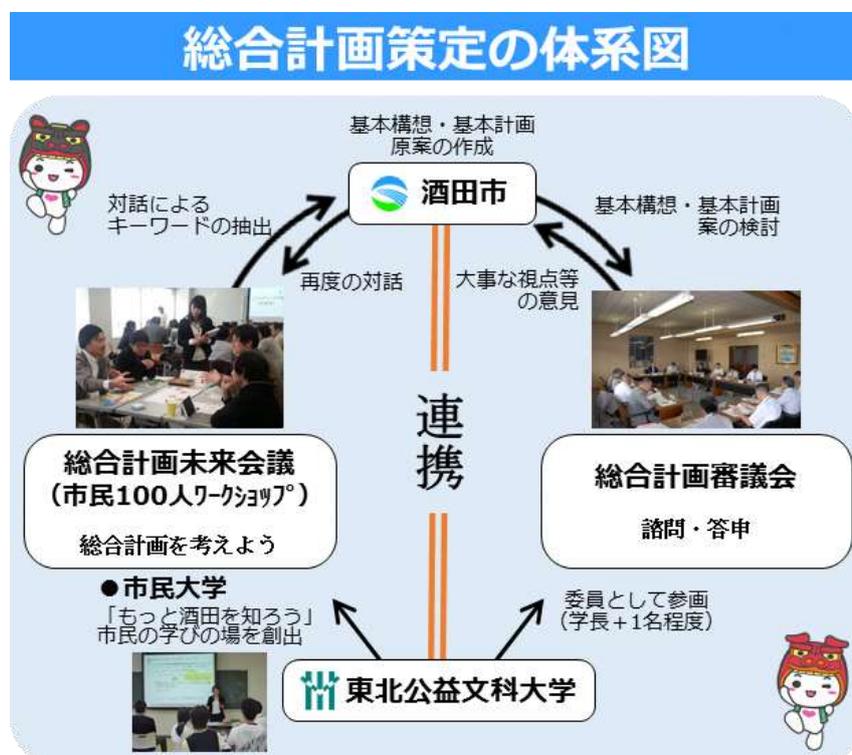


市民共有のまちづくり計画であるために
～ 酒田市総合計画策定の経過～



「みんなで作る」総合計画

- 酒田市では、総合計画を市民と行政との共通の指針として位置づけ、なるべく多くの方に関わってもらえるよう「みんなで作る」ことを大切にして策定を進めてきました。本冊子は、平成28～29年度の2年間にわたる策定までの経緯を別冊としてまとめたものです。
- 多くの方から市政（まちづくり）に参加いただけるよう、楽しく学び話し合う「総合計画未来会議」と、市内の各団体（住民自治、経済、医療福祉、東北公益文科大学、市民活動等）からご推薦いただいた、25人の委員により構成される諮問機関「総合計画審議会」の2つの会議体を同時に開催しながら策定を進めてきました。
- 策定にあたっては、大学教授の審議会委員への就任や学生のワークショップへの参加、市民大学の開講など、東北公益文科大学と連携してきました。



(目次)

1 総合計画審議会	
(1) 総合計画審議会とは	1
(2) 総合計画審議会委員名簿	1
(3) 総合計画審議会 審議経過	3
(4) 各部会での審議経過	5
(5) 総合計画審議会委員へのインタビュー	9
2 総合計画未来会議	
(1) 総合計画未来会議とは	19
(2) 総合計画未来会議の経過	
・平成28年度	20
・平成29年度	28
3 市の策定体制	
(1) 総合計画策定職員作業班（プロジェクトチーム）	35
(2) 酒田市総合計画推進本部	35
4 意見募集（パブリックコメント）	36
5 総合計画策定までの歩み（一覧）	41

1. 総合計画審議会

(1) 総合計画審議会とは

○酒田市長より総合計画の策定について諮問を受け、答申を行います。市内の各団体（住民自治、経済、医療福祉、東北公益文科大学、市民活動等）からご推薦いただいた25人の委員により構成されます。

(2) 総合計画審議会委員名簿

	所属	氏名	部会 (◎…会長、○…副会長)
1	酒田市自治会連合会連絡協議会会長	伊藤 則義 (H28.6.17～) 阿部 建治 (H29.5.17～)	◎ひとづくり・まちづくり 都市の将来像検討部会
2	酒田市市街地コミュニティ振興会 連絡協議会会長	小柴 勝	市民生活
3	酒田市コミュニティ振興会 連絡協議会会長	工藤 吉郎 (H28.6.17～) 佐藤 善一 (H29.5.17～)	○ひとづくり・まちづくり
4	八幡地域コミュニティ振興会 連絡協議会会長	齋藤 文之 (H28.6.17～) 兵藤 清彦 (H29.5.17～)	市民生活
5	松山地区コミュニティ振興会 連絡協議会会長	池田 重悦 (H28.6.17～) 齋藤 吉男 (H29.5.17～)	ひとづくり・まちづくり
6	平田地域コミュニティ振興会 連絡協議会会長	阿藤 勝 (H28.6.17～) 阿部 時男 (H29.5.17～)	ひとづくり・まちづくり
7	酒田市消費者団体連絡協議会副会長	後藤 キク	市民生活
8	酒田商工会議所副会頭	吉川 哲央 (副会長)	◎産業交流
9	酒田ふれあい商工会会長	富樫 秀克	産業交流
10	庄内みどり農業協同組合代表理事組合長	阿部 茂昭	○産業交流

	所属	氏名	部会 (◎…会長、○…副会長)
11	酒田市袖浦農業協同組合代表理事組合長	五十嵐 良弥	産業交流
12	北庄内森林組合代表理事組合長	高橋 治雄	産業交流
13	山形県漁業協同組合参事	西村 盛	産業交流
14	連合山形酒田飽海地域協議会事務局長	阿部 秀徳	産業交流 都市の将来像検討部会
15	公益社団法人酒田青年会議所	早坂 舞 (H29. 2. 4～)	産業交流
16	一般社団法人酒田地区医師会十全堂会長	栗谷 義樹	市民生活
17	社会福祉法人酒田市社会福祉協議会会長	阿部 直善	○市民生活 ◎都市の将来像検討部会
18	酒田市芸術文化協会会長	工藤 幸治	ひとづくり・まちづくり
19	酒田市食生活改善推進協議会会長	佐藤 初子	市民生活
20	きらきらネットワーク倶楽部会長	村上 淳子	産業交流 都市の将来像検討部会
21	酒田飽海PTA連合会母親委員会会長	小山 敏子 (H28. 6. 17～) 佐野 亜子 (H29. 5. 17～)	ひとづくり・まちづくり
22	特定非営利活動法人にこっと理事長	片桐 晃子	市民生活
23	特定非営利活動法人元気王国理事長	佐藤 香奈子	ひとづくり・まちづくり 都市の将来像検討部会
24	東北公益文科大学学長	吉村 昇 (会長)	ひとづくり・まちづくり
25	東北公益文科大学教授	武田 真理子	◎市民生活 都市の将来像検討部会

(3) 総合計画審議会 審議経過

○ 第1回 (委員 19 名出席)

日時：平成 28 年 6 月 17 日 (金曜) 午後 1 時 30 分から 3 時

会場：酒田市民会館希望ホール小ホール

内容：①審議会委員への委嘱状交付

②総合計画策定の諮問

③所属部会の決定

④各部会長および副会長の選出

⑤講話「いっしょにやる、ということ」

(講師：酒田市総合計画市民参画アドバイザー 加留部貴行氏)



○ 第2回 (委員 18 名出席)

日時：平成 28 年 7 月 21 日 (木曜) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分

会場：酒田市民会館希望ホール小ホール

内容：①「酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

②「第1回未来会議」について

③ 今後 10 年間を見ずえて、重要と考える視点や取り組み

○ 第3回 (委員 18 名出席)

日時：平成 29 年 5 月 17 日 (水曜) 午後 1 時から午後 3 時

会場：酒田市役所第 1・第 2 委員会室

内容：①現計画の目標数値にかかる実績について

②計画の骨子(案)について

③都市の将来像(案)について

○ 第4回（委員 17 名出席）

日時：平成 29 年 10 月 3 日（火曜）午後 2 時から 4 時

会場：酒田市役所第 1・第 2 委員会室

内容：①今後のスケジュールについて
②総合計画第二次原案について

○ 第5回（委員 17 名出席）

日時：平成 30 年 1 月 5 日（金曜）午後 1 時から 3 時

会場：酒田市役所 704 会議室

内容：①今後のスケジュールについて
②総合計画の（案）（原案）について（意見交換《最終》）

○ 第6回（委員 15 名出席）

日時：平成 30 年 2 月 15 日（木曜）午後 1 時 30 分から 3 時

会場：酒田市役所第 1・第 2 委員会室

内容：①酒田市総合計画（答申案）について
②答申



審議会の資料や議事概要は市ホームページに
全部掲載してあるのん。ぜひご覧くださいのん。
（次頁で紹介する部会の審議経過についても、
もちろん掲載しているのん）



酒田市総合計画の策定経緯

www.city.sakata.lg.jp/shisei/shisakukeikaku/kikaku/shinkeikaku/sogokeikaku2018.html

(4) 総合計画審議会 審議経過

○ 第1回各部会（ひとづくり・まちづくり部会、産業交流部会、市民生活部会）

開催日：平成28年11月24日、30日、12月5日

内 容：①現状と課題について

②未来会議における市民意識の傾向について

○ 第2回各部会（ひとづくり・まちづくり部会、産業交流部会、市民生活部会）

開催日：平成29年2月22日、24日

内 容：①総合計画審議会委員インタビューの概要（主な意見）

②新酒田市総合計画の策定について（策定の基本方針、総合計画の概要、基本計画のイメージ、評価について、スケジュールについて）



○ 第3回各部会（ひとづくり・まちづくり部会、産業交流部会、市民生活部会）

開催日：平成29年7月12日、20日、4日

内 容：①今後のスケジュールの確認、②基本計画の第一次原案について、

③現状と課題（最終調整版）について

○ 第4回各部会（ひとづくり・まちづくり部会、産業交流部会、市民生活部会）

開催日：平成29年8月30日、9月11日、8日

内 容：①第二次原案素案の性格および今後のスケジュールについて

②第二次原案素案について（計画全体について、部会所管の政策について）

○ 都市の将来像（ビジョン）検討部会

開催日：平成29年3月14日、23日、4月6日

※詳細は次頁以降を参照のこと

都市の将来像（ビジョン）検討部会の概要

1. 部会の概要

都市の将来像（基本理念）の原案を検討するため、作業部会となる当該部会をワークショップ形式により3回開催した。

○開催日時 | 平成29年3月14日（火）、3月23日（木）、4月6日（木）

○参加者 | 伊藤則義委員、佐藤香奈子委員、阿部秀徳委員、村上淳子委員、阿部直善委員（部会長）、武田真理子委員
および酒田市総合計画策定作業班（プロジェクトチームメンバー）

2. 都市の将来像検討の流れ

- ①これまでに出された意見、キーワードの振り返り（個人ワーク）
未来会議における市民からの意見、総合計画審議会委員インタビュー、市民アンケート 調査結果等を個人でじっくりと読み込む
- ②都市の将来像を個人個人で考える
足りない視点は無いか、特に重視すべき点は何かを書き出す
- ③都市の将来像をグループで考える
3グループに分かれ、キーワードのグルーピングや実際に短文を作ってみる作業。
- ④都市の将来像を全体で共有する
各グループ毎に話し合った内容を発表。
- ⑤他のグループの案をみて、ブラッシュアップ
他のグループの案に意見を出し合う。
（「この案いいね」、「これとこれは一つにできるのでは」等）
- ⑥これまでの議論を踏まえ各グループでキャッチコピーを考え発表
キャッチコピーそのもの、または「このワードは使いたい」という点を全体で共有
⇒検討部会での議論をベースにした事務局案を提示することを了承



各グループ案 (Aグループ)

酒田港で発展する
産業都市のまち

多様性を
受け入れ、活かし
みなと挑戦
し続けるまち

誰もが健康でみなと
住み続けられるまち

みなとともに誇る
築かれてきたまち

みなと対話し
ともにつくりあげていく
まち

各グループ案 (Bグループ)

共に創る
まち酒田

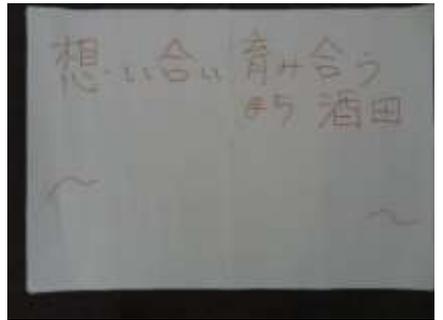
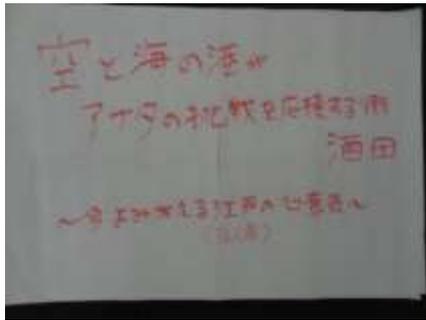
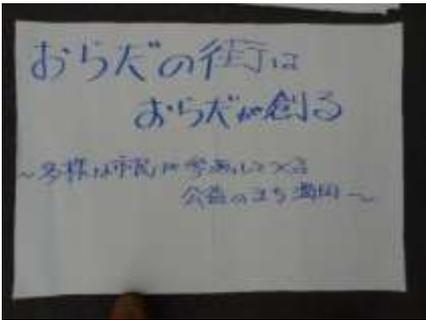
五感をもて
湊町、さかた

わくわくワーク
どきどきライフ
いきいき酒田

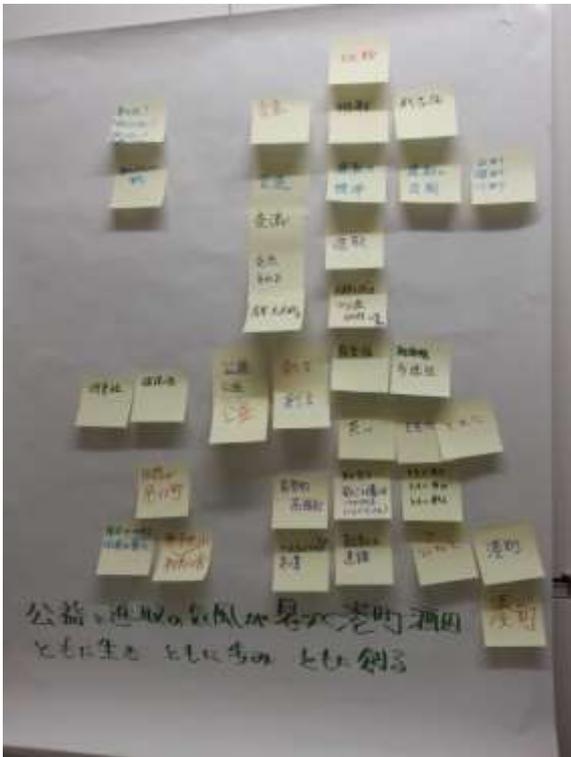
チャレンジを
後押しするまち
～前進を止めない
酒田～

健康医療都市
～みんなが笑顔で
いられる酒田～

各グループ案 (Cグループ)



キャッチフレーズについてのキーワード等



(5) 総合計画審議会委員へのインタビュー

- より幅広く、また、深く掘り下げた形で審議会委員からの意見を伺うため、平成 29 年 1 月～2 月にかけて、全審議会委員に対し、個別にインタビューを実施しました。インタビューで出された主な意見を分野別にまとめました。



市民生活・健康福祉等

【自治会・コミュニティ振興会 等】

- 市の主役は住民であり、最も取り組まないといけないのはコミュニティ関連施策。10 年間を振り返っても NPO、ボランティア、シニア層の活躍の素地が進んでいない中で、もう一度コミュニティ組織とどう向かい合うか、市の体制、施策の展開を示す必要があるのでは。
- 急激な少子高齢化、人口減少によるマンパワー不足に大きな危機感を抱いている。自治会、コミュニティ振興会の活動に関わる人の高齢化が著しく、現役世代からの参画が少ない状況。このままの状況が続けば、(歴史的な経緯もあり困難ではあるが) 統合せざるをえなくなる団体も生じるのではないか。
- 人口減少、少子高齢化が進んでいくと、行政でやっていたことを今後コミュニティ振興会(地域)でやらなければならないと思うが、市がコミュニティ振興会や自治会にただ丸投げするのではなく、その必要性を住民に周知し、理解、納得してもらう努力が行政側に必要である。
- 地域づくりを担う「人材育成」はやろうと思っただけではできない。まずは地域活動を経験してもらうことが大切。実際に関わってみることにより、ノウハウや仲間(ネットワーク)をえることができる。それが結果として、「人材育成」になるのではないか。
- コミュニティ振興会の中で、なるべく多くの方に役割(役職)を担ってもらうことは、非常に良いこと。一度でも何らかの役割を経験することにより、「他人任せ」にならなくなり、共通認識が持てる。
- 全市的に、コミュニティ振興会の役割を明確に示す指針があった方がよいのではないか。それぞれの地域で事情は異なるが、最終的な目的は安全・安心で住みやすいまちづくりである。
- コミュニティ振興会という組織はあるものの、地域によっては、自治会が地域活動を主導しているのではないか。
- 地域活動の原点は自治会にあると思っている。防災面でもそうだが、まずは最小単位である自治会で動くことになる。
- 合併後 10 年が過ぎたが、コミュニティ振興会連絡協議会は未だに 5 つ残っており、それほど交流もない。情報共有や情報交換の場ということであれば、そろそろ統合を検討しても良いのではないか。
⇨市全体のコミュニティ振興会の方向性がないまま、連絡協議会だけが合併しても意味がない。
- 現状、コミュニティ振興会の連絡協議会では会議等のみ実施し、事業は行っていない。事業自体

は各コミ振で実施し、協議会でやる必要は無いと考える。

⇨コミュニティ振興会連絡協議会として広域的に活動していくことも集客等を考えると必要ではないか。

○自治会加入率の低下については粘り強く話していくしかないと思う。普段からの交流が大事。

【防災】

○実際に訓練してみないとわからないことが多いことから、地域での避難所立ち上げ訓練を早急に全市的に実施すべきである。地区住民数に応じた避難所の面積が確保されているか、きちんとした試算が必要。

○災害はいつ発生するかわからない。地域住民みんなで話し合いながら防災マップを策定し、活用すべき。

○防災意識はまだまだ低いと感じる。県で新しく作る防災条例では公助、互助、共助、自助といったところを謳おうとしている。防災とコミュニティは一体であり、全員が当事者なので、対話のきっかけになる。

○人口減少、少子高齢化、過疎化、孤立化等が同時進行していく。当然に「災害弱者」も増加。発災時対策を準備（避難所・福祉避難所開設及び運営、災害ボランティアセンター設置運営訓練の積み重ねなど）しないと、有事に対応できない。

【域内交通】

○中山間地域の交通について、高齢者が免許返納した場合、公共交通しか足が無くなる。団塊の世代が高齢化すると、さらに大きな課題になるのではないか。

○地域公共交通については、高齢者だけではなく、若年者や観光客向けの交通体系を考えることも必要。

○コミュニティセンターまでの交通手段が問題。法や既存事業者との調整等、さまざまなハードルがあることは理解しているが、地域のサイズに合った、地域内で集まるための足が、今後必要となる。

【空き家】

○利活用できる空き家はたくさんある。活用方法として、地域での支え合い活動、介護予防・生活支援サービス提供の拠点、ボランティアやNPO、市民活動などの公益団体の活動拠点等も検討しては。

【市民活動・ボランティア活動 等】

○活動に参加した人が「楽しい」と思わなければ、活動は長続きしない。会議なら参加型にする等、「楽しい」と思えるような雰囲気をつくるのが何よりも大切。

○ボランティア・市民活動・NPO等の公益活動については、公益活動支援センターと社協ボランティアセンターの一元化を図り、わかりやすいものにし、ここを核にボランティア活動をいっそう振興していく。市民に参加を求めるだけでなく、市職員も地域活動、ボランティア活動に積極的参加をしていくべき。

○財政的に厳しい時代ではあるが、頑張っている団体には支援すべき。補助をもらうことによって、「頑張らない」という意識が生じる。

○今、ボランティアで頑張っている高齢世代の方が、10年後も頑張れるかといえば難しい。これから仕事を退職していくアクティブシニア世代の活躍が必要だ。

○地域活動、民生委員の担い手育成が急務。即戦力を確保しようとする短期と、中・長期に分けて考えることも必要。民生委員の確保・欠員補充（支援）を施策として打ち出すべきである。地域に任せる（自主性）は大事だが、それだけでは済まない現実がある。現行の推薦の仕組み（個人対応中心）について、コミュニティ振興会単位で、世話役課長なども入る形で、推薦委員会を組織するよ

う依頼してはどうか。

- さまざまな地域活動をするうえでは、それぞれの家庭での家族の協力がなくともうまくいかないと感じている。家族にも、自分と一緒に活動している人を紹介するなど、顔のみえる関係を築くことが大切。
- 悪徳商法への取組みについては、さまざまなメディアで情報を得られるが、その情報を口コミで共有することが重要。講習会等も大切だが、それだけではなく、気軽に集まって話す場をつくることが大切だ。
- 婚活イベントについては、すべてお膳立てせずに、企画段階から参加者に関わってもらうことが必要。それによって、キーパーソンを発掘でき、参加者も増えていくものと考え。

【地域福祉・医療・介護 等】

- 地縁組織（コミュニティ振興会、自治会）、地域の福祉団体、ボランティア・公益活動団体、事業所、社協、行政などの協働による地域福祉活動が展開され、コミュニティ振興会単位で、その地域の特性に応じた支え合いの仕組みができていくことが理想。
 - ・他人事ではなく自分の事、明日は我が身の理念の下、「ボランティアや地域活動をしないではいけない、しないのは恥ずかしい」と言われるような互酬性の高い地域社会が構築されるべき。
 - ・基本は、『地域で必要なことを住民自らが決め、地域でできないことを行政が補完する』仕組みを目指していくこと。
 - ・行政は、社協と連携し、協働の活動が地域で展開されるための方向づけ（計画策定等）、担い手育成のための研修・教育の場づくり、一定の財政的支援を行う。
- 日常生活に支障をきたしたり、権利擁護が困難になったりする高齢者や障がい者等が顕在化、増加することが心配。つまり、行政やフォーマルサービスに依存するだけでは、住み慣れた地域で暮らし続けることが困難になりかねない。日常生活支援、権利擁護、安否確認が大きな課題。
- 最近の諸制度改正、法施行が全体を通じて求めていることは、地域社会での課題解決。各改正や施行が求めていることを地域で総合することで、地域福祉の新たな地平を切り開く絶好の機会と捉える。
- 地域包括ケア体制の構築に本気で取り組むべき。地域包括ケアで重要なことは、往診、訪問看護、訪問介護、介護予防・生活支援サービスがセットで提供されること。不足であれば事業参入を促す仕組みが必要。
- 介護予防・生活支援サービス提供体制の整備は、介護保険制度改正の目玉。社協のあり方検討とも関連するが、社会福祉法人による地域公益活動とのコラボも想定しつつ、まずは、地域との協議を深めることが重要ではないか。
- 社会福祉法改正に伴う社会福祉法人による地域公益活動の取り組みを支援すべき。
- 行政と市民との協働、市民同士の協働を推進する方針を明確にして、総合計画、関連する各計画において、理念だけでなく、具体策を示して方針化すべき。具体的には、コミュニティ振興会単位で支え合いの仕組みを考えるワークショップの開催を働きかけ、その地域の特性に応じた支え合いの仕組みをつくることを最終目標として方針化する。成功モデルづくりを先行し、そのノウハウを各コミュニティ振興会に広げていくことが現実的ではないか。
- 高齢者や障がい者、子ども等の権利擁護、排除されない地域づくりが必要。複合的で複雑な相談ごとを総合的に受け止め、他機関と連携する窓口を設置すべき。
- 精神・知的・発達などの障がい（疑い含む）、ひきこもり、消費の計画性、金銭感覚などの困難事例が多く表面化していると感じる。中間就労支援や家計相談支援が必要。学習支援事業についても、世代間での生活状況を調査し、必要があれば実施すべき。
- ひとり親家庭や生活困窮家庭児童の学習支援、孤食（高齢者含む）対策の（子ども）食堂などの活

- 動を財政援助ではなく、相談・紹介、期限切れ近い災害備蓄食品援助等で支援していくべき。
- 少子高齢化が進んでいく中で、介護予防の日常生活支援統合事業など、自治会・地域住民の参画が不可欠となるが、まだまだ理解が進んでいないのではないかと。地域住民の理解を深めることが必要。
 - 健康寿命を延ばすことが重要。介護予防講座等にも積極的に参加し、個人個人が健康維持を図ることが医療費を抑えることに繋がる。加えて、人生の終わりのあり方についてもきちんと話し合いを持つべき。
 - 高齢者の見守りについては、地域の関わりも重要だが、やはり家族の関わりが基本であり、重視されるべきだ。地域での見守りといっても限界がある。
 - 市民の死因の第1位は「がん」。全国・県内でも高レベルであり、早期発見で死亡を減らすことができれば、健康寿命の延伸、社会保障費削減につながるのではないかと。
 - 自死防止対策を緩めずに実施すべき。防ぐことが可能な死であり、引き続き取り組む必要がある。
 - 障がい者差別解消法を地域で浸透させるため、市民の目に見える形でのイベント等を実施・支援すべき。
 - 10年後の2027年は、介護需要がピークに達していて、医療需要は10%ほど減少しているだろう。医療需要が減少したときに、医療提供自体がどのようなになっているのか想定しなければならない。
 - 医療と介護は、コストマネジメントが深く関わっている事業であり、地域医療連携推進法人は、それができる制度。この制度の活用で、2025年までの7~8年間は破綻することはないだろう。
 - 喫煙に対する意識がまだ低いのではないかと。市の施設もコメンなどはまだ敷地内で吸えるところもある。受動喫煙に対してはもう少し高く意識を持って市も取り組む必要があるのでは。

産業・交流

【企業誘致・企業支援・雇用 等】

- 企業誘致を進めるためには、外からカネを引っ張ってこることが重要で、企業の国内回帰の動きを取り込んでいくことが必要ではないかと。
- 企業誘致を進めるためには、酒田港をもっと活用すべきであり、経済特区、税免除など大胆な施策が必要。
- 地域でがんばっている企業に対して、行政からの支援（補助金、利子補給等）を継続してほしい。
- 事業継承も大きな課題になっており、人材育成が重要となる。
- 既存企業に対しては新規産業の育成が重要となると思う。産学官金労の連携と、特に金融機関が持つノウハウの活用が重要となる。
- 地元就職の機運醸成としては、地元企業が新規事業に進出することにより今ある企業の魅力を高めることが必要で、そのためには産官学金労の繋がりを深めることが必要だと思う。
- 創業者に対して、関係機関と市が一体となってバックアップしていくべきである。
- 有効求人倍率が上がっているが、求人側も誰でも良いわけではなく企業とのマッチングは難しい。
- 若者のUIターンについては、仕事の選択肢を含め、地元の魅力を高めていくしかないのではないかと。

【農業・六次産業化等】

- 集落営農のリーダーが経営感覚を身につけていく必要がある。
- 親元で就農して経験を積み、肥料、農薬、作物の生理生態を学ぶ必要がある。5年以上かかる。家族農業をどうやって守っていくかが重要だと考えている。
- 農業については、耕作放棄地の問題がある。生産高の維持のためには集約化は当然必要だが、家

族経営に焦点をあてることも必要と思う。

- 新規学卒者、UIJターン就農については、やる気のある青年をいかにして引っ張り込むか。
- 最初に新しい取り組みをした人は一番リスクが大きい。先駆者を応援してほしい。
- 集落営農の理想は、米だけでなく野菜にも取り組む複合経営のほずである。
- 北平田地区での取り組みは、モデルとなる事業と考えている。
- 園芸作物の振興品目の選定には、加工品の考え方も必要と考える。
- 東根市にある産直の年間売上は12億円、寒河江市にある産直の年間売上は8億円である。それぞれの産直への登録者は約500名いると聞いている。山居館の年間売上は約1億円であり、登録者は約100名に過ぎない。酒田で大規模にやるとすれば300名程度の登録者は必要と考える。
- 商業高校跡地で産直と農家レストランを整備できれば、かなりの観光客の増加が見込まれると考えている。
- 農商工連携のマッチングの延長線上に6次産業化がある。以前に酒田のイカ丼が売り出され、新たな名物としての可能性を感じたが、今は聞かない。継続することが大事である。
- 生産現場で捨てられている規格外品を加工に回すなど工夫が必要と考える。
- 対面販売は、野菜の作り方や料理方法などお客とのやり取りが魅力である。
- 加工や販売もやるとすれば、経理、生産、営業、配達等の分業が重要と考える。
- 米粉を使ったレシピを商工業者が開発できればと考えている。
- 「酒田は1次産品が立派だ。これを活用して、もっといい商品ができるはずだ。」などと意見は出るが、10年経っても同じことを話しているのはいかがなものか。今は、情報が瞬時に国境を越える。長期的な取り組みのもと、世界で競争できる商品の開発が必要だ。庄内（酒田市）でならそれが可能。
- 地域内での消費だけでは足りない。外向けにインパクトのあるPRが必要である。現状は、PRが下手、しつこさがない。アンテナショップや人的ネットワーク等あらゆるチャンネルを活用すべきである。
- 梨、メロンは、近年、台湾、香港に輸出したが、現地で好評。今後も積極的に輸出に取り組んでいきたい。
- 検疫は厳しいが、花木は輸出のチャンスがあると思う。サンクトペテルブルクでは、啓翁桜を大々的に取り上げてくれ、ロシア国内で大きく報道された。花の需要が高まっている。
- 耕畜連携を継続していくには、畜産業そのものの振興が重要である。
- 近代的な子牛生産センターをJA、市で支援できればいい。

【林業振興】

- 木を出すためには林道や作業道の整備が重要である。
- 松食い虫の原因も、山（林）に人が入ることが減り、手入れをしないから弱くなってきたのではないかと感じている。

【漁業振興】

- 酒田港では、水揚げされたイカを発泡スチロールの箱に入れるが、函館などは専用のコンテナに入れ、そのまま凍結させる設備がある。凍結庫も-70℃であり、酒田港の-60℃よりよい。
- 庄内浜は、漁業者の減少だけでなく、仲買人も減少しているため、市場の整備統合も検討する必要がある。
- 漁業については、当該地域は多品種少量の漁獲であることから大量消費には向かない。個人向けの流通や地産地消を進めるべきではないか。

【移住・定住】

- 進学等で酒田を離れた学生らが、卒業後にまた酒田に帰ってきたいと思うまちづくりをしたい。

子ども達が郷土愛を感じるよう、意識を醸成していかなければならない。市や地域でももちろん取組んでいかなければならないが、まずは親が家庭の中で酒田の素晴らしさ子どもに伝えることがもっとも重要である。

- 市外・県外へ出て大学で知識を得ても、酒田に戻って働ける場所がなければ、帰ってこれない。働く場の創出が最重要である。
- 墓地の確保をセットにした移住PRを検討してはどうか。移住者にとって「終活」は大きな関心事であるはず。都会では、墓地を手に入れるのは大変と聞く。
- 地域での支え合い活動がしっかりしていることも、安心の醸成につながり、移住環境を高めることになる。
- 優秀な若い女性が、流出していかないことが重要は。自立心が高く貢献意識の高い方たちが地元で活躍できるよう、地元を理解し、地元での暮らし方をイメージ（キャリア形成）できるように、ネットワークが構築されていくと良い。高校生への教育や支援の機会を地道に作っていくことが重要。

【働き方】

- 女性の働きやすい環境が大事。経営的な背景もあり企業の理解が進むのは時間がかかるが、ここに取り組みないと少子化の構造は変わらない。若い女性のロールモデルで希望のある現状が示せれば良いと感じる。
- 女性の活躍が重要となる。現在女性は働き、子育てもするというような状況となっており、フォローするしくみが必要である。
- 週末には社会活動や余暇活動の充実が必要。
- 退職された方も働き続けることができる社会が必要。

【観光・交流・街なかの賑わい】

- 庄内全域を見据えた新たな観光推進組織が必要である。
- 海鮮市場と山居倉庫が拠点なのであれば、繋げる仕掛けを考えるべき。
- 外から集客力のあるカフェなど、近隣の商圈にはないものを誘致するのもいい。
- 大学生が街中にいないのは来たいと思うような魅力がないではないか。大学生が街中に来ないと観光客も増えない。学生が街中で活動するための思い切った仕掛けを講じてほしい。
- 駅前、中町（産業会館）は建物を整備して完成ではなく、商店街全体が復活しないと意味がない。
- フランス料理、寿司のレベルは高い。気軽に食べられるように屋台のようなものなどできないか。
- 食品加工体験、雪降ろしなど体験型、イベント参加型観光を進めるべきである。
- 庄内は四季が明確であり、季節毎の食材を組み合わせたツアー企画など、今ある資源を最大限活用すべき。
- 台町の料亭文化にも力を入れてほしい。
- 県外の人を呼ぶにはラーメンのイベントが有効。バスが停まれる駐車場が必要である。
- お金が落ちなければ活性化につながらない。地産地消の考え方も大事。
- 高校生が酒田に来なくなったのは駅前に何も無いから。余目の子は鶴岡の高校に行く傾向。
- 国際交流という観点、交流人口ということを考えると、観光という面に目が行くが、ここで暮らす外国の方が暮らしやすい状況にあるのかということが大前提。そこから始めることが真の国際化につながる。
- 市として大規模な団体を受け入れる体制が上手くできていないように思う。宿泊施設が少なく、1,000人規模で受け入れることができるイベント会場がない。各種イベントを誘致することも大切だが、受入体制もしっかりと構築すべきである。

【酒田港】

- 酒田港における危険物の取り扱いなど、更なる利便性の向上も進めてほしい。
- 外国クルーズ船の寄港を契機として、ポートセールスを更に推進してほしい。そのためには、食事、交通、物販など各業界が一体となって努力しなければならない。
- リサイクルポートについて、今後も港の利活用を推進してほしい。
- 将来は、酒田港から木材を輸出できないかと考えている。
- 酒田港については、酒田港の地理的優位性を活かすことが重要と思う。大量輸送に向く貨物輸送を太平洋側と結ぶよう活動すべき。

【インフラ整備】

- 庄内が一丸となって高速道路の早期完成を目指してほしい。
- 新庄余目道路、国道 112 号線の機能強化にも力を入れるべき。
- 鉄道については、時間、費用、他自治体との連携等を総合的に判断して推進していくべき。
- 庄内空港においては、LCC の誘致と更なる駐車場の整備が必要と考える。
- 首都圏等からのアクセスの悪さは解消されて欲しい。県庁所在地をつなぐ山形新幹線延伸も含め交通網の整備は頑張ってもらいたい。

子育て・教育

【子育て】

- 子育ての環境は本当に厳しい現状。100 年先を見据えたワークライフバランスに取り組む民間企業もある。年齢、性別、国籍に関係なくそれぞれの暮らしが生き活きとあることが重要。
- 今は「少子化」と「子育て」に、一番財源を使うべき。2人で働いて、月 25 万円くらいの収入では、子供を生んで育てることもできない。
- 父母の役割、働き方、生活そのものが多様化している中で、酒田版ネウボラによる、切れ目のない支援が出来ると良い。特定妊婦、不安のある家庭支援への支援が期待される。事業内容も大事だが、より大切なのは人。どのような人が関わるか。建物があるから相談に行くのではない。
- 地域にいる退職者などの人材の活用や発掘にもっと力を入れるべき。育て中の女性にも素晴らしいキャリアや才能を持つ人材が豊富にいる。
- 子育て支援について、現行施策の成果を明らかにする必要がある。給付拡大はその後検討すべき。
- 子育てにおいては、雇用側の意識改革についても働きかけが必要。働く母は、就労先を選ぶ際に「子どもに何かあったときに休めるか」という環境が賃金に勝るポイントになることもある。
- 祖父母世代に、今の社会の子育てについて情報提供を行う必要を感じている。
- 転入者から「酒田の子育て環境は良い」という声を聞く。子育て資源をうまく PR して行くことも重要。
- 外で子供が思いっきり遊べる遊び場を作れば良い（建物は不要）。
- 港・海があるのに「海の遊び場」がないと言う声がある。良い資源を活かしきれていない。あるものを活かす視点、若い世代の視点が重要。
- 小さなことだが、子供への声かけは大切。子育てに悩むお母さんも、少し安心感を得られるのではないと思う。年配の方にも同様。声がけされることによって孤独感が和らぐと思う。
- 今の若い人達には様々な考えがあると思うが、結婚し子どもを育てることが当たり前であって欲しい。

【教育】

- 小さい頃からの酒田愛の醸成が必要。酒田は、自然が美しく、歴史・文化がある素晴らしいところであることを伝えていかなければならない。
- 英語教育等も重要だとは思いますが、遊びを通した人間性の形成こそが重要ではないか。遊具や施設を作れというのではない。広場があれば子どもは遊べる。
- 部活動が過度な負担になっているように思うので、子供の学習の時間、地域活動の時間等を確保する意味でも、休養日を設けるべきである。
- 教育については単にテストの点数が高ければ良いわけではないが、学力に特化した学校があったり、他の分野に強い学校があったりと、もっと特色があって良いのではないか。学校毎の学力の公表は難しいのかもしれないが、可能な限りオープンな教育を目指していくべき。
- 現状、酒田市内の小中学校の学力は高くない。秋田県はトップクラスであり、特に由利本荘市は高い。由利本荘市と連携して交流事業・学びの事業・見学に行くなどするとよいのでは。
- 有料の民間の塾に行けない子を対象に「夢希望塾」があればよい。教職希望の学生が塾の講師になり、週1、2回教えるようなイメージ。
- 駅前ビルに東北公益文科大学のサテライトキャンパスを作り、イングリッシュカフェ、サイエンスカフェ等で市民と協働し、小中学生とも賑わいを作っていければよい。
- 東北公益文科大学が強くなり大きくならなければいけない。1,000名くらい常時在学することが理想。今は7割しかいない状況であり、また、酒田市の学生が鶴岡市の学生より少ない状況にある。
- 公益大に工業系の学部があれば理想的。酒田から工業高校がなくなり、製造業の会社は工業高校、高専のある鶴岡に目が行ってしまう。

【スポーツ等】

- 遊びを通した体力向上を目指すべき。現状は、外で子供が遊べる場所が少なく、自然と関わる遊び場がない。結果として遊びの中で体を動かす機会が少なくなり、運動不足、体力低下につながっている。
- 今後、スポーツや健康づくりで地域活性化に取り組むという流れになれば面白いのではないか。総合型地域スポーツクラブをプロ選手等のセカンドキャリアの受け皿としていくような取り組みが考えられる。
- 酒田でもハーフマラソン等を行っているが、そこからの広がりが薄いように感じる。ジオパークの流れもあるので、スポーツイベントを核としながら、スポーツツーリズム、エコツーリズムに発展できればよい。

【芸術・文化】

- 黒森歌舞伎等、文化の継承が重要である。
- 市民芸術祭がますます盛会になるように各芸文団体に財政支援をしていくべき。また、芸術文化にかかわる後継者育成が近々の課題である。
- コミセンの文化祭が、地域に根ざした芸術文化活動の養成につながっている。発表の場は市民芸術祭、養成の場はコミュニティに依存しているが、連携が必要。
- 総合支所管内の芸術祭は存続させるべきと考える。
- 「鑑賞」＝「見ること、聞くことの芸術文化活動」ということを広く周知するべき。
- 美術館が観光ルートに入っていない。酒田にアートスポットはたくさんあるのだが、標識・看板が少ない。

その他全体に関すること 等

【情報発信、PRの強化、広域連携】

- 酒田、鶴岡それぞれではなく、庄内が一つとなって売り込み、情報発信しないと全国には伝わらない。
- 庄内地域の抱える課題は基本的には同じであり、庄内2市3町が連携しなければならない。
- 市として、何に力を入れているのかがわかりづらい。部分的にはPRできているが、お金の使い方が分散しているので、はっきりしない気がする。酒田も思い切った施策が必要。
- 今後、酒田市だけで完結できる分野はない。庄内他市町、山形県と連携し、一体感のある交流都市を目指してほしい。

【めざすまちの姿、キーワード等】

- 総合戦略もそうだが、酒田の場合、計画に柱が多すぎる。「仕事を創り出すこと」が最も重要で、そこに全力を傾注するべき。移住や結婚等は後からついてくるもの。
- まちづくりは企業が元気にならないとだめ。昔は民間が元気でいろいろな事業が民間主導で行われていた。
- 1市3町が合併してから10年経過したが、旧町単位の枠が根強く残っていると思う。旧市・旧町の考えから脱却し、明確なビジョンを持って市政運営をしていってほしい。
- これからどうなっていくのか、確実な未来と変動要因のある未来を一緒に考えなければならない。失敗したときに不都合な情報も集める必要がある。そうでなければ地方創生はできない。
- 都市計画マスタープランの検討にこれから入るとのことだが、小さな拠点、定住自立圏など様々な施策がある。都市計画の観点からコミュニティデザインを地域が自主的に考えていくということも必要。
- コンパクトシティの概念をどこまで示せるか。市民も怖いが気になっている部分と感じる。財政的視点で見れば長期的にいつまでも全体に投資はできない。向きあわないといけない課題。
- 地元の人には気付かない、「よそ者の発想」を生かした地域活性化が必要。
- 「世代間の交流」の視点が大事。
- 今後、市民の「自助・自立、共創・協働のまちづくり」がますます求められるのではないか。
- 「仕事、産業が持続的に発展」するまちであってほしい。
- キーワードとしては、「地域力」「人間力」「活力」が挙げられる。
- ふるさととは近くにありて愛すもの。自分たちが住んでいるふるさと＝酒田の街をもっと愛するということ。
- 「交流」は酒田全体としてのキーワード。地域間、世代間の交流を進めていくべき。
- 酒田市は、いろいろな人が、その属性に応じて「〇〇都市、△△のまち」と言っており、「顔」が多すぎて、正直よくわからないのが本音だが、これまでの歴史を考えれば、「港（湊）町」「交流都市」「港（湊）町文化と東北農村文化の融合したまち」「公益のまち」などに収斂されるのでは。
- 「変化」しなければならない。過去にとらわれず新しいものを取り入れていかないと消滅都市になる。もっと危機感を持つべき。
- キーワードは「助け合い」をもっと深い言葉で言い表すもの。都会の人でもそれを求めて訪れるのではないか。酒田市には「ふれあい」や「暖かさ」が、まだ残っている。
- 料理のレベルは国内有数であり、「食」にもっと焦点をあてても良いかもしれない。
- 酒田市の人は個性的な人が多く、「自由な文化」が息づいていると思う。
- 「人と人との繋がり」から知らないことを覚える。お互いに教え合う。頑張っている人の取り組みを知る。

○酒田市のイメージは「港町さかた」。

○大学があることから、「学都さかた、学問教育人材を育てるまちさかた」等がキーワード。

【総合計画】

○総合計画で市が示すのは方向性であるべきで、基本的には民間が動くのが良いのでは。細かいところをあまり市が先に言うと市が全部やることになる感じが出てしまう。

○総合計画は、掛け声ばかりで具体性がない。キャッチコピーを考えるだけで終わっている。

○生産年齢人口が減少する中で、税収をどのように確保するのが最も大事な話であって、どのようにしてその仕組みを作るのが本当の総合計画だ。

【市役所内部の体制】

○考えるだけでなく、作戦を立て、戦術を考え、行程表を作成し、必要な財源も計算する。そういう仕組みを市の組織の中に作る必要がある。

○市内部に、新しい情報、知識、ノウハウを収集する部門が必要だ。最新の情報を集積させて、そのビッグデータから進むべき方向をどうやって作っていくのか、それを専門とする部門が必要だ。情報と資本投下、予算は一体のものだ。それができる人材が酒田市には必要だ。

○フロンセス（実践的な知）、知識から最善の行動・計画を選ぶことができる能力がない。だから前に進むことができない。

○何事においても、途中経過の段階でもいいので、早いタイミングで市民に話をしていく姿勢が重要である。

2. 総合計画未来会議

(1) 総合計画未来会議とは

- 総合計画の策定を通じ、多くの市民の方からまちづくりを「自分のこと」として考え、関わって頂くために、「楽しく学び話あう」場として設置されたワークショップ形式の会議です。平成 28～29 年度の 2 年間にかけて、計 12 回、延べ約 1,400 人もの市民の方から参加頂きました。



Q. どんな人が参加していたのん？

A. 非常に多様な肩書きを持つ方々から参加いただきました。

【年 齢】 10 代から 70 代後半の方まで、あらゆる年代の方が参加

【所 属】 酒田市内に住居または勤務先・通学先がある

学生（中学生、高校生、東北公益文科大学学生等）、社会人（市職員含む）、ボランティア・NPO・地域コミュニティに関わる方、等、多様な属性の方が参加（オブザーバーとして、他市町村からも参加あり）

【男女比】 ほぼ半々

【募 集】 公募、無作為抽出、団体推薦、学校推薦 等



Q. どんな形式の会議だったのん？

A. 総合計画未来会議は、ワークショップ形式で開催しました。テーブルを口の字型にしたような固い会議ではなく、1 回あたり約 100 人もの方々が集まり、模造紙や付箋を使いながら、対等な立場でワイワイガヤガヤと話し合う場としました。

参加者が、楽しく、でも真剣に話し合えるよう、酒田市総合計画市民参画アドバイザーとして、加留部貴行氏が進行・コーディネートを担当しました。



加留部 貴行氏

- ・九州大学大学院統合新領域学府客員准教授
- ・認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会理事・運営委員
- ・特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 フェロー

(2) 総合計画未来会議の経過

平成28年度 第1回 総合計画未来会議

日時：2016年6月18日（土） 13時30分～16時30分

場所：酒田市総合文化センター 3階コミュニティルーム

1. 【講話】 いっしょにやる、ということ

～ 今、なぜ「対話」を活かした市民参画が求められているのか ～



←酒田市総合計画
市民参画アドバイザー
加留部 貴行 氏

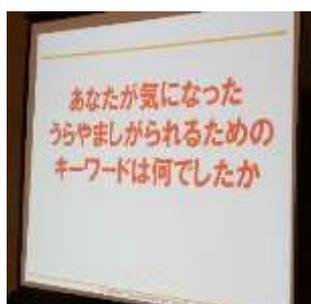
○「対話」＝「聴く」×「話す」

- ・各地で「対話」の場づくりが広がっている。話をしているようで、話をしていない人同士で、話をする。そこから「共有」と「共感」が生まれ、初めて「共働」することができる。

2. ワークショップ

○テーマ：未来の酒田市がまわりからとてもうらやましがられているとしたら、どのようなまちや暮らしになっているでしょうか

- ・上記について、ワイワイガヤガヤ、楽しく話し合い、最後にそれぞれが気になったキーワードを出し合いました。



3. 参加者から出されたキーワード（第1回）の傾向

○未来の酒田市がまわりからとてもうらやましがられているためには…

① 「人」に関するワードがもっとも多い。

例) 人がイキイキ、若者が元気、世代間で交流がある、人材育成、人と話せる場がある、挑戦する力、酒田を本気で好きな人が多い 等

⇒「酒田市民が酒田のことを好きになっている」という視点も

② 酒田の食、自然、景観の良さ

例) おいしくて安全な「食」、鳥海山・夕日・海などがきれい、自然が豊かで食べ物がおいしい

⇒中には、“実は酒田には何でもある！”という意見も

⇒これらの良さ（資源）を「PR・発信」すべきという声が多かった。

③ 酒田港

例) 港の活性化、魅力的な港、港の発展 等

④ 仕事

例) 酒田に帰っても働き続けられる、仕事（選択肢）をもっと増やす等

⑤ 酒田だけの魅力

例) “ここにしか無い”ものがある酒田、酒田ブランド 等

⇒学生からの意見が多かった

⑥ 住みやすさ（安全・安心など）

例) 安全で住みやすい町、住民が「住んでて良かったなあ」と思える町
活力がある住みやすい街、安心して幸せを実感できる酒田 等

平成 28 年度 第 2 回 総合計画未来会議

日時：2016 年 7 月 31 日（日） 午前 9 時 30 分～12 時 30 分

場所：酒田市勤労者福祉センター 3 階多目的ホール

1. ワークショップ

○テーマ：①酒田の「**いいの～**」は何ですか ②酒田の「**あんべわりの～**」は何ですか
・みんなで話し合った後、①「**いいの～**」の中から、特に伸ばしたい点、②「**あんべわりの～**」の中から、ここは解決したいと思う点をキーワードとして出し合う。



2. 参加者から出されたキーワード（第 2 回）の傾向

○「**いいの～**」の中からもっと伸ばしたいこと

①「自然・景観」「食」がもっとも多い

例 自然環境が良い（海・山・川・平野）、すばらしい景色、夕焼け、食べ物（ラーメン・果物）、PR、発信していく、自然の豊かさ・食べ物のおいしさなど市民で良さを共有し外にももっとアピール

②「観光」「歴史・伝統・文化」「港」

例 観光資源がたくさんある、北前船の寄港地と芭蕉「おくの細道」、歴史的建造物が多い、歴史のある町、黒森歌舞伎！、美術館が3つもある、酒田港、港をもっと有効に活用し、酒田を活気づけたい

⇒①②ともに、より効果的な情報発信（PR）をしていくべきという声が多かったのが特徴的。

○「**あんべわりの～**」の中からもっと伸ばしたいこと

①「交通」がダントツで多い！

例 交通アクセス、市内交通網（バス等）が弱い 等

⇒域内交通、他地域との交通アクセス（インフラ整備）の両方の観点がある。

②「街の賑わい」「交流の場」「仕事」「若者定着」

例 活気が無い駅前・周辺、商店街がさみしい、老若男女の交流が少ないので市民が率先して活動を行い交流していけるようにする、若者が遊べる場所がない、生活の基礎となる仕事の場所を増やす、若者が働き先のことによってUターンに不安を感じていること 等

日時：2016 年 8 月 28 日（日）午前 9 時 30 分～12 時 30 分

場所：酒田市総合文化センター 3 階コミュニティルーム

1. まちづくりシミュレーションゲーム「SIMさかた 2030」

○各テーブルが1つの仮想都市「さけ田市」。参加者は市の幹部となって、グループ内で対話をしながら人口の減少や社会保障費の増といった条件下で政策の選択を体験。



Voice! 参加した方からの声

- ・たった5人のグループでも意見をまとめるのが難しい。
- ・お金の限りがあるので選択は本当に大変。
- ・まちづくりなど、今後の市を考えるうえで、どのような市にしたいかビジョンがはっきりしていないと難しいものだと思いました。

○ゲームのまとめ（酒田市総合計画市民参画アドバイザー加留部 貴行氏）



- ・どれも大事な事業で廃止するのが難しい。
 - ⇒部分最適から全体最適へ
 - ⇒話し合うことの必要性
 - ⇒多世代で考える価値
- ・はじめにビジョンがあったら・・・
 - ⇒総合計画の重要性

○ゲーム終了後に参加者に問いかけ

「あなたが、これからの酒田市にとって、一番大切にしたいことは何ですか」

2. 参加者から出されたキーワード（第3回）の傾向

○これからの酒田市にとって、一番大切にしたいこと

①「人づくり」「つながり・交流」「対話」「まちづくりへの参加」「共働」

例)・「人」中心のまちづくりを！ ○コミュニティ（人とのつながり）

- ・行政・企業・市民が一緒になってやっていく
- ・多世代が集い地域のことを考える「場」 ○対話と相談の重要性
- ・市民の一人として市政に参加すること

②市民一人一人の「住みやすさ」「幸せ」

例)・酒田市民がここに住んで良かったと感じられること

- ・老若男女が住みやすい「何となく幸せ」感がある酒田

③未来志向のビジョン

例)・納得度の高いビジョン、先を見据えたまちづくり

- ・持続可能な未来志向のまちづくりをしていきたい！
- ⇒次の世代を見据え、若い世代の考えが重要とする声が多かった。

【みんなでつくる総合計画 vol.08~あののんのレポート~】

※酒田市公式 facebook ページより抜粋



8月28日（日）の第3回総合計画未来会議に行ってきたのん。文化センターに中学生から70代の方、約100人が集まって、仮想都市「さけ田市」のまちづくりを体験するゲームをしていたのん。参加者は、どんな市にしたいかという「ビジョン」の必要性や、考えの違いを「対話」で乗り越えていく大切さに気づいていたみたいだったのん。…え、あののんは会場にいなかったって？みんなには見えなかったかもしれないけど、真剣に楽しく未来を語り合う姿をちゃんと見ていたのん。また4回目で会いましょう、だのん。

日時：2016 年 10 月 8 日（土） 13 時 30 分～16 時 30 分

場所：酒田産業会館 4 階「日本海」

1. ワークショップ

○テーマ：①酒田の〇〇の「いいの～」は何ですか、②酒田の〇〇の「あんべわりの～」は何ですか

- ・ 6 つのテーマ（①交通、②仕事・産業、③観光・歴史・伝統・文化・自然・景観、④教育・子育て・人づくり、⑤暮らし・福祉・健康、⑥賑わい・交流）関心のあるテーマを参加者それぞれが選択し、グループワークを行う。



2. 参加者から出されたキーワード（第 4 回）の傾向

○ 〇〇の「いいの～」 をこうしたい

① 「食」「自然」「歴史文化」の多くの「いいの」を PR していきべき

例) 観光地たくさんある。食おいしい。(ラーメンも)

⇒もっと PR して知ってもらいたい。

⇒「あんべわりの」に続き、情報発信に関する記載が「いいの」でも非常に多かった。

② 「酒田港」

例) クルーズ船寄港による観光産業の発展

③ 「つながり・ふれあい」

例) ・学生と地域のふれあい、・子ども、大人が地域で交流できる機会を増やしていく。

○ 〇〇の「あんべわりの～」 をこうしたい

① もっとも多かったのは「交通」

例) コミュニティバスの使いづらさ ⇒観光施設を周遊するルート、時間設定を特化

② 「観光」

例) PR が下手 ⇒建物や景観のストーリーを市民が学び、共有。観光客に対し一人ひとりがガイドになれるまち。観光に限らず、産業・仕事などさまざまな面で、対外的にはもちろん市民に対しても PR が下手、不足しているという声が多い。

③ 「賑わい・交流」「コミュニティ」

例) 地域活動の担い手不足

⇒退職後や中高生だけでなく、休日に来れる地域活動を楽しむ

平成 28 年度 第 5 回 総合計画未来会議

日時：2016 年 11 月 19 日（土） 13 時 30 分～16 時 30 分

場所：酒田市勤労者福祉センター 3 階多目的ホール

1. ワークショップ

○テーマ：酒田の未来の「具体的な姿」を語る ～酒田の未来の新聞をつくろう～

・これまでの未来会議で出てきたキーワードを振り返りながら、未来の新聞をグループ毎に作成する。



2. 酒田の未来の新聞の傾向

① 観光客・交流人口・定住人口の増加で街が賑わっている内容の記事が多い。

（見出し例）・酒田の食を求めて観光客続々 ・大型クルーズ船 毎週寄港

・北前船遊覧始まる ・来たのお新幹線 ・50 年ぶり酒田市の人口が増えた

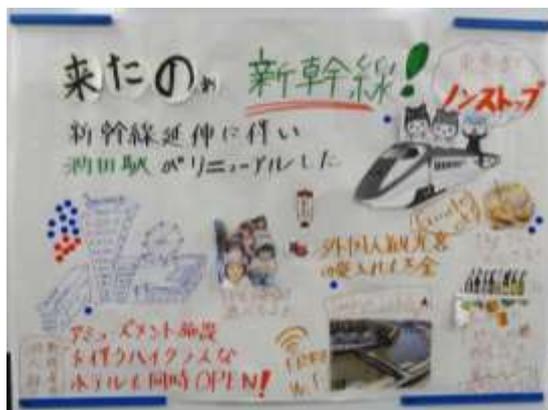
② 「住みやすさ」「住民参加」「健康」を重視する記事も多い。

（見出し例）・酒田は「人のつながり」あんべのいい町

・住民参加率 100% の地域づくり ・車が無くても安心

・世代間交流で街に賑わい ・子育て日本一

・健康日本一の SAKATA に住みませんか



総合計画未来会議（平成28年度 番外編）

多職種・多分野版

日時：2016年10月21日（金）

○テーマ：あなたが関わっている分野の目指したいまちの姿を
考えてみよう

- ・農林水産業、医療福祉、教育、観光、商工会議所、市民団体など、さまざまな分野で活躍する市民約40人による多職種・多分野版未来会議を開催。



東北公益文科大学学生版

日時：2016年11月1日（火）

○テーマ：学生の皆さんが感じている酒田の「いいの」
「あんべわりの」は何ですか

- ・東北公益文科大学生向けの未来会議を開催。



総合計画未来会議のデザイン（平成28年度）

- ・第1回 条件なしに未来を語る
まわりからうらやましがられる未来の酒田
- ・第2回 酒田の現状を見つめ直す
もっと伸ばしたい「いいところ（資源）」 ぜひ解決したい「悪いところ（課題）」
- ・第3回 選択の時代（縮小社会）であることを学び、未来を語る
まちづくりシミュレーションゲーム
- ・第4回 酒田の現状を見つめ直す②
関心のあるテーマごとにグループワーク
- ・第5回 未来の酒田の「具体的な姿」を語る
酒田の「未来の新聞」をつくろう
- ・（第6回）1年の振り返りと参加者同士の交流会

1年目は主に「めざすまちの姿」（基本構想）につながる話し合いをしてきたのん。



平成29年度 第1回 総合計画未来会議

日時：2017年5月16日（日） 9時30分～12時30分

場所：公益研修センター 中研修室

1. 【講話】 いっしょにやる、ということ

～ 今、なぜ「対話」を活かした市民参画が求められているのか ～



←酒田市総合計画
市民参画アドバイザー
加留部 貴行 氏

- 新メンバーを迎え、昨年度までの経過を改めて事務局より説明後、「対話」を活かした市民参画の必要性についての講話を実施。
- 29年度の未来会議の役割を事務局より説明。
⇒基本計画をチェックし、より良いものにしていく！

2. ワークショップ

- テーマ：あなたが考える「酒田市が力を入れていくべき政策」のトップ3は何でしょうか？
・グループでそれぞれ紹介し合い、その後、自分の「イチオシ政策」を書き出す。



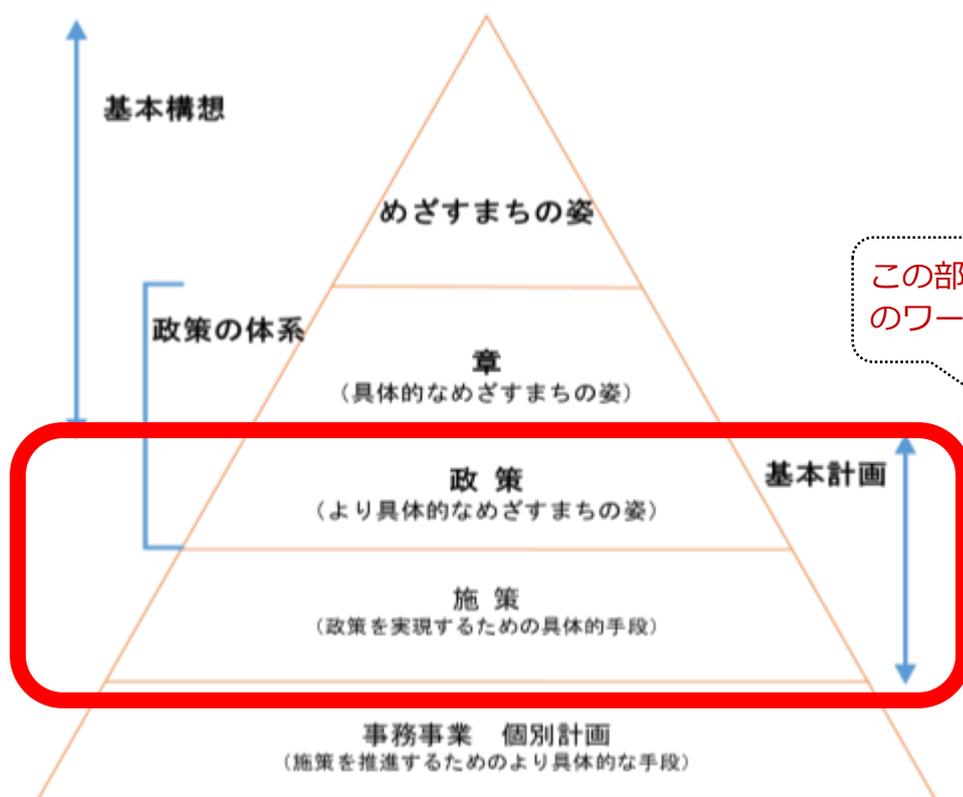
平成29年度 第2～4回 総合計画未来会議

- ・ 第2回 2017年7月8日(土) 13時30分～16時30分
- ・ 第3回 2017年7月30日(日) 9時30分～12時30分
- ・ 第4回 2017年8月19日(土) 13時30分～16時30分

※場所はすべて公益研修センター中研修室

1. 平成29年度 第2回～4回 未来会議の概要①

○市役所の基本計画原案を一緒により良いものに仕上げていく回として位置づけ



この部分をより良くするためのワークショップだのん



2. 平成29年度 第2回～4回 未来会議の概要②

○第1回 5/14(日) 導入回

↓話し合う計画案のテーマ

○第2回 7/8(土) 産業交流

○第3回 7/30(日) 市民生活・健康福祉

○第4回 8/19(土) ひとづくり・生活インフラ

○第5回 10/7(土) 全体案について話し合う回

○第6回 3/24(土) 新総合計画のお披露目の回

3. 平成29年度 第2回～4回 ワークショップの具体的な進め方

- テーマとなる政策の中から気になる政策を選び、その政策の「屋台ブース」に移動。
- 移動したら、はじめに市役所の担当者からシートの説明を聞きます。
- 説明が終わったら話し合いスタート。
 - ・感想や質問
 - ・もっとこうしたら？
 - ・市民ができることは？
- 上記を3ラウンド繰り返し。
(1ラウンド45分)



ース

各政策のポイント一覧

シート番号	政策タイトル	内容
2-1	地域経済を牽引する 酪工業が元気になるまち	①商店街や中心市街地に人が集まる空間や仕組みを作っていく。 ②公益大と連携し高度情報技術者の育成に取り組む。 ③企業の立地、事業拡張を促進するため、柔軟に支援を行っていく。
2-2	「港」の物流機能により 産業競争力が高いまち	①酒田港、庄内空港2つの「港」の物流機能を活用し、地域経済活性化に結びつけていく。 ⇒(酒田港)ポートセールス、営業活動 ⇒(庄内空港)ANA連携協定を活かした農産物の輸出拡大
2-3	地元でいきいきと 働くことができるまち	①農気拡大による人手不足、若者流出が課題であるため、地元定着、Uターン就職対策に取り組む。 ⇒Uターン促進、企業見学ツアー、奨学金等 ②働く女性の確保づくりに取り組む。 ⇒マザーズジョブサポート庄内との連携
2-4	夢があり、 健かなる農業で豊かなまち	農業所得の向上に向けて取り組む。 ①生産面：売れる米づくり、畜産農業、農産物の付加価値を高める取り組みの推進 ②販売面：海外への輸出や酒田ブランド・食文化の発信基地の整備等の推進
2-5	100年続く森林を語り、 活かすまち	①酒田産木材の需要の拡大や公共施設等の木造化の推進と、それを支える計画的な森林整備 ②木質バイオマス燃料を安定供給する体制づくり ③森林病害虫対策、森林ボランティア活動の推進等による森林の保全
2-6	思い豊かな 水産を活かすまち	①つくり育てる漁業やスルメイカ・トラフグ等のブランド化の推進 ②いか釣り船によるスルメイカの水揚げを促進し、「いかのまち酒田」としてPR ③庄内浜水産物の販路拡大と消費拡大
3-1	移住者・定住者が 増えるまち	①移住相談総合窓口を中心とした各種支援及び連携体制の一層の充実 ②学校、企業と連携した情報共有やマッチング支援 ③様々なコンテンツを利用した戦略的なPR活動 ④生涯活躍のまち構想の実現に向けた検討の推進
3-2	「おもてなし」が あふれ、交流で うらやまなまち	①戦略的な交流事業、情報発信によって酒田ファンを増やし、観光客増など地域経済の活性化につなげる。 ②そのために、市民一人ひとりの酒田への愛着・誇りを育み、市民と行政の一体的な情報発信と「おもてなし」ができるようにする。

4. 平成29年度 第2回～4回 ワークショップの様子

屋台風なので市担当者はハッピーを着ていたりします



これってどういうこと？
もっとこうしたら？



私ができることは？

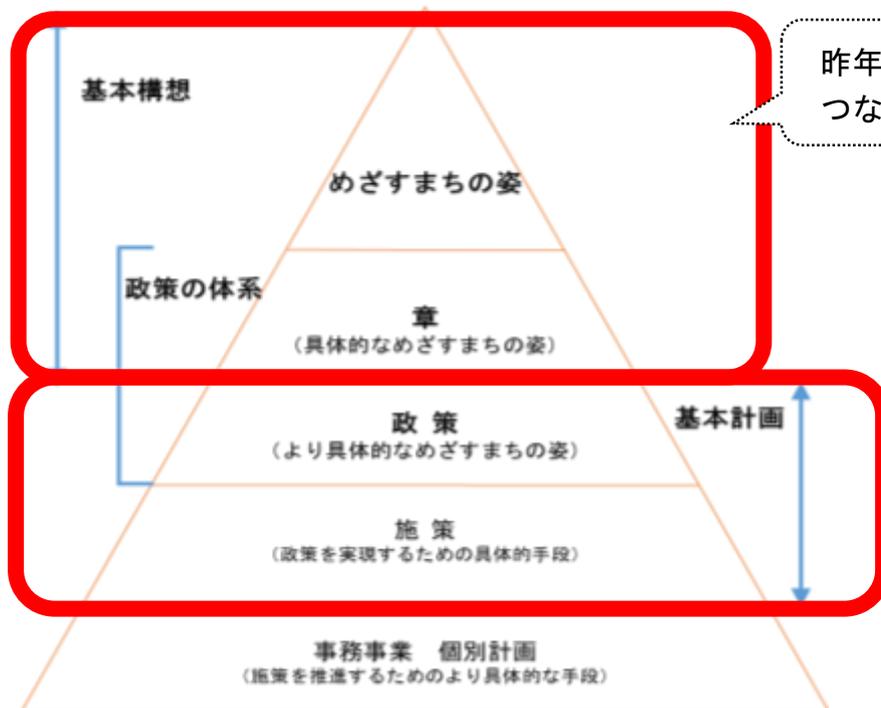
政策の通信簿をつくらう

平成29年度 第5回 総合計画未来会議

日時：2017年10月7日（土） 午後1時30分～4時30分

場所：酒田市総合文化センター 3階コミュニティルーム

1. 事務局からこれまでの取り組みを説明



昨年度は酒田市の将来像につなげるキーワード集め

今年度は基本計画原案をよりよくするための話し合いを続けてきて、今回はいよいよ第2次原案の全体について話し合う回。いわば、公開パブリックコメントだのん。



2. ワークショップ

○事務局からの説明を聞いて、どう思ったか席替えをしながら意見交換。



○自分が気になる政策をチェック

・政策に対する意見等を書き出すための「勉強の時間」。壁に貼り出された26の政策を自由に移動しながらチェック。担当職員が質問に対応。



○政策に対する意見等を書き出して話し合い

- ・個人個人でふせんに書き出し、テーブルで共有した後、壁の政策シートに貼り付け。



○—○
修正すべきこと
追加すべきこと

ピンクのふせん

○—○
評価できること
いいね♪と思うこと

青色のふせん

○—○
質問・疑問点・
わからないこと
その他感想など

黄色のふせん

○未来の酒田のために「私にできること」を書き出し、テーブルで発表。



○最後に参加者全員で記念撮影。



平成29年度 第6回 総合計画未来会議

日時：2018年3月24日（土） 午後1時30分～4時30分

場所：酒田市総合文化センター 3階コミュニティルーム

1. 新総合計画のお披露目会 & 対話を通じた市民参加によるまちづくり計画シンポジウム

○事務局より総合計画策定までの2年間の取り組みを報告後、自己紹介を兼ねながら、これまで未来会議に参加しての感想等について、テーブルで話し合い。



2. フロア参加型パネルディスカッション



丸山 至 酒田市長



佐藤 淳 氏
・青森中央学院大学経営法学部准教授
・早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員



高橋 由和 氏
・特定非営利活動法人きらりよしじま
ネットワーク事務局長
・山形県地域活動支援アドバイザー 等

○対話を通じた市民参加によるまちづくりについて、3氏から事例を紹介後、それぞれの事例についてテーブルで感想を話し合い。

3. ワークショップ

○テーマ：あなたはこれからの地域（組織・活動等）でどのような対話の場をつくり、参加してみたいですか

・ワールドカフェの形式で話し合いを行った後、「共創・協働のまちに向けたわたしの一歩」をテーブル内で発表。



総合計画未来会議（平成29年度 番外編）

東北公益文科大学学生版

日時：2017年7月11日（火）、13日（木）

○テーマ：「少子高齢化の地域に必要な仕組み・取り組み」

「目指したい酒田市の姿」

・東北公益文科大学学生によるワークショップを菓子



総合計画未来会議のデザイン（平成29年度）

- ・第1回 1年目のふりかえりとあなたの気になる政策ベスト3
- ・第2～4回 市役所の原案を一緒により良いものに仕上げていく
テーマ：第2回「産業交流」、第3回「市民生活・健康福祉」、
第4回「ひとづくり・生活インフラ」
- ・第5回 市役所の第二次原案について意見交換会
リアルな？パブリックコメント
- ・第6回 総合計画のお披露目&対話を通した市民参加によるまちづくり計画シンポジウム



2年目は基本計画の原案を一緒につくりあげるための話し合いをしてきたのん。



ここで掲載しきれなかった参加者からの声や、より詳細な未来会議の様子は、市ホームページに掲載してあるのん。

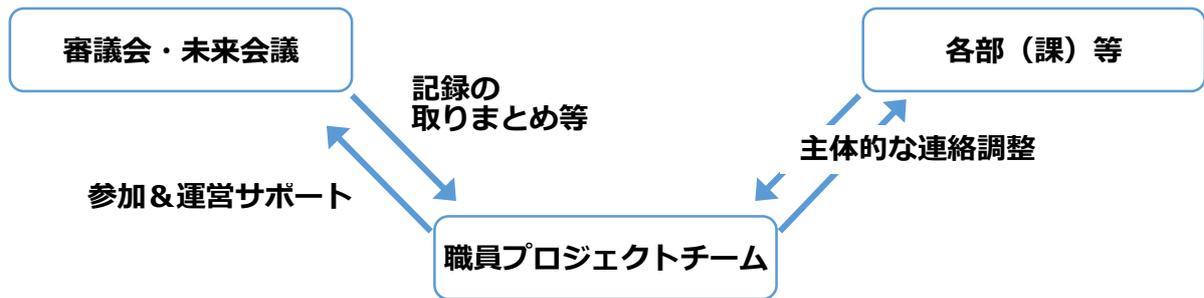
酒田市総合計画の策定経緯

www.city.sakata.lg.jp/shisei/shisakukeikaku/kikaku/shinkeikaku/sogokeikaku2018.html

3. 市の策定体制

(1) 総合計画策定職員作業班（プロジェクトチーム）

○策定作業の円滑な進捗と若手職員の育成を目的に、総合計画策定職員作業班（プロジェクトチーム、以下「PT」という）を設置しました。



○さまざまな部課等から、20～40代の市職員30名が参加。

○総合計画未来会議の進め方や、計画の内容について等、2年間で
全20回開催しました。



(2) 酒田市総合計画推進本部

○総合計画の策定に向け、市長、副市長、関係部長等が構成員となる酒田市総合計画推進本部会議を計5回開催しました。

- | | | |
|--------------|-----|---|
| ・平成29年2月16日 | 第1回 | (1) 総合計画の全体像（基本構想案）について |
| ・平成29年5月8日 | 第2回 | (1) 総合計画の全体像について
(2) 基本構想案について
(3) 現計画の評価について |
| ・平成29年6月27日 | 第3回 | (1) 基本計画の第1次原案
(2) 現状と課題（最終調整版） |
| ・平成29年8月25日 | 第4回 | (1) 第二次原案素案について |
| ・平成29年11月20日 | 第5回 | (1) 庁内最終案について |

4. 意見募集 (パブリックコメント)

(1) 酒田市総合計画(案)に関する意見募集(パブリックコメント)の 実施概要

○募集期間：平成30年1月16日(火)から平成30年2月5日(月)まで

○意見書提出者：2名(電子メールでの提出2名)、意見総数26件

○提出された意見：以下のとおり

【全体に対するご意見】 ※考え方を問うご意見 15件

NO.	ご意見(原文)	本市の考え方
1	1月21日付の山形新聞記事で意見公募を知った。ホームページも含め市民多数の衆目の点で儀礼通過にならないか。	次期総合計画(案)の作成については、2年間で11回の市民ワークショップを重ね、多様な市民の皆様の意見を反映しながら「みんなで作る」の基本姿勢で進めてまいりました。なお、意見募集については、1月16日号広報にも掲載しております。
2	基本とする計画は全体的に網羅されていると思われる。しかし、相伴の実施計画が不明でイメージが沸きづらい。	総合計画は、本市の最上位計画に位置付けられるもので、全体を網羅する一方で、どうしても抽象的にならざるを得ない側面があります。具体的な施策については、関連個別計画に定め、着実に進めてまいります。
3	全体的にSDGsの考え方をもっと強く出し、市民に大きな夢と希望を持たせたい。	SDGs(持続可能な開発目標)という視点ではありませんが、次期総合計画では、市と市民の共通の目標として4つの「めざすまちの姿」を定めました。これらは、こんなまちにしたいという市民の思いを形にしたものです。
4	「みんなで考えよう『私にできること』」の着眼に同感できる一方、人的・物的条件が整わない場合は行政水準のダウンサイジングに繋がりがねず懸念。	人口減少の縮小社会では、将来的に行政だけでまちづくりを担うことは難しいと考えられます。可能な限り行政サービスを維持できるよう、市民の皆様との協働によりまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

NO.	ご意見（原文）	本市の考え方
5	P D C Aに市民の意向を今後どのような形で取り入れるのか不安。	総合計画の評価については、P D C Aの中で市民に公表しながら進めてまいります。
6	行政との両輪である議会に期待するところ大であるが、市民の代表でもあるだけにステーツマン・シップの発揮どころが見えてこない。	総合計画は、基本的に市が行うべき政策の方向性や施策について掲載するものであり、議会について掲載するものではありません。
7	現状と課題の深部を探ろうとする意欲に物足りなさを感じる。結果、表面的で上滑りになっている。	紙面も限られており、総合計画の性格上、全項目にわたり詳しい分析などを掲載することができませんが、より詳しい分析を実施しております。
8	規模の適正化や選択と集中による財政の健全化は理解できるが、市街地でも旧町でも同じ市民が住んでいることを忘れてはならない。	当然のことと考えます。コンパクトプラスネットワークの考え方を基本に全ての市民が暮らしを維持できるようなまちづくりを進めてまいります。
9	山形県庁の中で庄内、酒田の位置づけが年々後退しているように思われる。打開策を早急に講じていただきたい。	山形県に対しては、庄内地域の振興を連携して進めながら、更に必要な事項については要望していきます。
10	計画を作るのも実行するのも結局は人材。市民ファーストの考えがあれば人財となる。	「行財政運営の方針」において、市民目線で地域と協働することができるコミュニケーション力・コーディネーション力等を兼ね備えた人材の育成が重要という認識を示しております。
11	酒田市が内外から愛着を持たれ、選ばれるまちづくりを。子育て、教育、暮らしやすさ等。	4つの「めざすまちの姿」では、酒田が大好きな市民が訪れた人をおもてなしすることができたり、どんな人も自分らしく暮らすことができたりする、そんな将来像を描いており、ご指摘と方向性を同じくするものと考えます。
12	地域の衰退が著しい。そのため市全体の活力が失われている。	人口減少の縮小社会においては、本市に限った課題ではありませんが、人口減少への対策を最重要課題として進めながら、産業の振興、市民が安心して暮らすことができるまちづくりを進めております。
13	実施計画も同時に計画化されるとすれば、事業費の入らない事業名程度の列挙は可能か。	総合計画は、基本計画の5年間で取り組む主な施策を掲載しております。実施計画は策定していませんが、具体的な事業は個別計画に委ね、推進してまいります。
14	総合計画にカラー写真をふんだんに取り入れていただきたい。	読みやすくわかりやすい製本レイアウト等に努めてまいります。
15	各世帯にダイジェスト版を配布していただきたい。	全戸配布は予定していませんが、市広報で特集記事を掲載する予定です。なお、出前講座等で周知を図ってまいります。

【各政策に対するご意見】 ※考え方を問うご意見 8件

NO.	ご意見（原文）	本市の考え方
1	<p>【第3章 政策2】 ジオパークによる明確なターゲットで価値を発信する取り組みとは。</p>	<p>一例として、地域にゆかりのある山岳写真家の講演会やモニターツアーの実施など、「写真のまち・さかた」をアピールするような取り組みなど、今後は対象者をある程度絞り込んだ企画が必要と考えております。</p>
2	<p>【第3章 政策2】 国内外の都市との交流は、派手さがある一方、市民の生活向上や暮らしやすさに結びつくかという一過性が否めない。</p>	<p>国内外の都市との交流は、本市の魅力向上に資するものであり、交流人口の増加などにより、市民の生活向上に結びつけるよう努めてまいります。</p>
3	<p>【第4章 政策1】 高齢化、少子化に伴い、医療と福祉が大きな課題となる。包括ケア、暮らしの足、マンパワー等に負担感を感じない具体策を早急に期待したい。</p>	<p>人口減少の縮小社会では、将来的に行政だけでまちづくりを担うことは難しいと考えられます。市民の皆様と一緒に安心して暮らすことができるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。</p>
4	<p>【第4章 政策1】 障がい者が健常者と共に協同して暮らすためには、健常者から見た計画だけでなく、障がい者を理解し自分自身が障がい者となった時のことを考えて、障がい者がもっと住みやすくなるような総合計画の策定をお願いしたい。（総合計画から障がい者福祉計画に反映できるように）</p>	<p>総合計画においては、いわゆる障害者差別解消法の理念に基づき、今後の方向性において共生社会の具現化を図るとしております。ご意見の通り、本計画の考え方に従って、今後の障がい者福祉計画を策定してまいります。</p>
5	<p>【第5章 政策3】 防災行政無線を活用しながら、情報伝達手段の多重化を図るとの事だが、それはいつまでか。 災害や不測の事態は何時来てもおかしくない。早急な点検・整備と充実を強く望みたい。 時報（6時、12時、17時）をオルゴールでお知らせしているが、標準時とズレが生じ間抜けくさい。</p>	<p>情報伝達手段の多重化については、防災行政無線のほか同様の緊急情報が伝達できる仕組みとして、テレビ・ラジオの各種媒体等に瞬時に避難勧告等の情報を伝達するLアラートシステムなどの配備など、既に取り組んでいることから、今後は、防災行政無線が聞こえない旧市内への防災ラジオの普及・拡大を図るとともに、今後も継続的に取り組んでいきます。 サイレンやオルゴール等での時刻のお知らせは、防災行政無線を活用した放送をしています。なお、防災行政無線は、同一時間に同一の内容しか流すことができないことから、同じ時間帯に別の内容で流す局（地域）が重なった場合は、放送時間を調整して対応してきたところです。現在、時刻を優先し統一する方向で各地域と調整を進めています。</p>

NO.	ご意見（原文）	本市の考え方
6	<p>【第5章 政策5】 酒田市全体を一括りにすることなく、地域特性を踏まえた施策が望まれる。そのためにはダブルスタンダードの考えが必須。</p>	<p>地域特性を踏まえた施策については、関連個別計画に位置付けしている過疎地域自立促進計画及び山形県離島振興計画で進めてまいります。</p>
7	<p>【第5章 政策5】 山村振興のための具体策が見えづらい。単に自然を活かす的な考え方では衰退するばかり。</p>	<p>ご指摘のとおりの方で、過疎地域と離島に関する取り組みを、第5章の政策5として位置づけました。山村振興法による「振興山村地域」に指定されている大沢、日向、田沢、北俣の各地区については、同法に基づく施策の展開を検討します。</p>
8	<p>【第6章 政策3】 安田バイパスは合併支援道路であったはず。それも構想が出てから50年も経過しようとしている。如何なる理由があろうとも尋常とはいえない。怠慢の謗りを免れることはできない。事実上、市街地と八幡地域の分断を進めている。スピード感を持って取り組んでほしい。</p>	<p>国道344号の安全で円滑な通行には、安田バイパスの一日も早い完成が必要と考えております。平成27年度において正式に事業化され、具体的な工事に向けた作業が進められております。今後も沿線地域住民や関係機関・団体と協力しながら、早期開通に向け、引き続き強く要望を行ってまいります。</p>

【各政策に対するご意見】 ※具体的修正意見 3件

NO.	ご意見（原文）	本市の考え方
1	<p>【第4章 政策1】 「現状における課題」の一項目 障がい者※4が地域社会において積極的に参加・貢献できるよう、必要に応じたサービスが提供される体制が整いつつありますが、<u>障がい者の自立については、働く場が少ない状況にあります。</u> 下線を以下のように修正。 いまだに障がい者に対しての偏見、差別が生じており、障がい者の就労の場や理解が進んでいない状況にあります。</p>	<p>修正しません。 内閣府の障害者に関する世論調査においては多くの方が偏見や差別はあると思っ ていることが明らかになっておりますが、障がい福祉計画策定におけるニーズ調査では、障がいにより一般就労できる状況にないとの回答が多数を占めており、障がいの状態にあった就労の場が少ないことが課題と考えております。</p>

NO.	ご意見（原文）	本市の考え方
2	<p>【第4章 政策1】</p> <p>「今後の方向性と主な施策」の一項目 高年齢者や障がい者等の抱える様々な課題に・・・の箇条書き欄への追加 追加の文章 ・障がい者に対する差別や偏見の解消を推進する。</p>	<p>修正しません。</p> <p>いわゆる障害者差別解消法の理念に基づき、共生社会の具現化を図るとした今後の方向性においては、当然のことながら差別や偏見の解消といった事柄も包含しております。ご意見頂いた内容については、現障がい者福祉計画において、障がい及び障がい者への理解の促進として記載しております。</p>
3	<p>【第4章 政策1】</p> <p>「※4 障がい者の注釈」</p> <p>国の法令等における「障害」、本市の運用による「障がい」、「しょうがい」を提唱する考え方など、表記についての観点は様々で、社会側にある課題として捉えた場合など、表記の受けとめ方が異なるため丁寧な議論が必要であり、本計画では従来から本市で運用している表記を使用するもの 下線部を「で総称する」に修正。</p>	<p>ご指摘のとおり修正します。</p> <p>国の法令等における「障害」 ↓ 国の法令等で総称する「障害」</p>

酒田市総合計画 策定までの歩み（一覧表）

年	月	庁内の動き	総合計画審議会	総合計画未来会議	議会	その他	
28 年度	6月	○6/15 総合計画策定職員作業班 (プロジェクトチーム) 会議 ※2年間で計20回実施	○6/17 第1回全体会 ・諮問、所属部会の決定、各部長・副部長選出 ・市民参画に関する講演	○6/18 第1回 ・総合計画市民参画アドバイザーの講話「市民参画の必要性」 ・ワークショップ「まわりからうらやましがられる未来の酒田」	状況報告	市民大学 ↑ ↓	
	7月		○7/21 第2回全体会 ・未来会議報告 ・10年後を見据えて重要と考える視点	○7/31 第2回 ・酒田の「あんべわりの～」 「いいの～」			
	8月	○「現状と課題」の作成		○8/28 第3回 ・まちづくりシミュレーションゲーム「SIM2030」	状況報告		
	9月						
	10月	○各課等とのヒアリング (今後あるべき姿、そのための手段)		○10/8 第4回 ・酒田の○○(特定のテーマ)の「いいの」「あんべわりの」 ○10/21 多職種・他分野版 ・「あなたが関わっている分野の目指したいまちの姿」			
	11月	○「現状と課題」取りまとめ	○11/24～12/5 第1回各部会 ・現状と課題について ・未来会議報告	○11/1 東北公益文科大学版 ・学生の皆さんが感じている酒田の「いいの」「あんべわりの」 ○11/19 第5回 ・酒田の未来新聞をつくろう(酒田の未来の具体的な姿を語る)	状況報告		
	12月						
	1月		○審議会委員全員へのインタビュー				○市民アンケート
	2月	○新総合計画柱立てに関する各部課との ヒアリング ○2/16 第2回 総合計画推進本部会議 ・現在の基本構想案について	○2/22,24 第2回各部会 ・基本構想の構成について ・インタビュー結果について		状況報告		
	3月	○3/24 市民参画計画策定研修会	○3/14,23都市の将来像(ビジョン)検討委員会 ・都市の将来像を考えるワークショップ	○3/25 総合計画未来会議 番外編 ・28年度の未来会議ふりかえり、状況報告 ・参加者交流会			○私の街さかた(酒田市広報) ・「みんなで作る総合計画」特集
29 年度	4月	○中旬～5月上旬 ・各課との意見交換	○4/6 都市の将来像(ビジョン)検討委員会 ・都市の将来像を考えるワークショップ				
	5月	○5/8 第2回 総合計画推進本部会議 ・現計画の評価 ・計画骨子 ・基本構想案	○5/17 第3回全体会 ・現計画の評価 ・計画骨子 ・基本構想案	○5/14 H29年度 第1回 ・1年目の振り返り ・あなたの気になる政策ベスト3	状況報告(勉強会)		
	6月	○6/27 第3回 総合計画推進本部会議 ・基本計画の第一次原案について					
	7月		○7/4,12,20 第3回各部会 ・基本計画の第一次原案 ・現状と課題について	○7/8 H29年度 第2回 ・総合計画原案を一緒により良いものに仕上げる(～4回) ・テーマ:産業交流 ○7/11,13 東北公益文科大学版 ○7/30 H29年度 第3回 ・テーマ:市民生活・健康福祉			
	8月	○8/25 第4回 総合計画推進本部会議 ・基本計画の第二次原案(素案)について		○8/19 H29年度 第4回 ・テーマ:ひとづくり・生活インフラ	状況報告		
	9月	○二役と部長級職員との個別協議	○8/30,9/7,11 第4回各部会 ・基本計画の第二次原案について		状況報告(勉強会)		
	10月		○10/3 第4回全体会 ・基本計画の第二次原案について (各部会における審議内容の報告)	○10/7 H29年度 第5回未来会議 ・総合計画第二次原案に対するリアルなパブコメ	(市議会議員選挙)		
	11月	○11/20 第5回 総合計画推進本部会議 ・庁内最終案について			議長団説明、代表者会議		
	12月				全員協議会		
	1月		○1/5 第4回全体会 ・総合計画(案)(原案)について最終の意見交換				○市民アンケート ○パブリックコメント (1/16～2/5)
	2月		○2/15 第5回全体会 ・国土利用計画(案)についての報告 ・総合計画(答申案)について、答申		各常任委員会		
	3月			○3/24 H29年度 第6回未来会議 ・総合計画のお披露目 ・対話を通じた市民参加によるまちづくり計画シンポジウム	3月定例会での議決		